ぎふの農業人
美濃・飛騨
2018.JULY
Vol.9
JABANK PRESENTS・Farmer's Face in Gifu

夏秋トマト

恵那山麓の水と東美濃の風土が育む赤く熟したうまみ

岐阜の自然に育まれる農産物と生産農家を紹介するシリーズ。今回はJAひがしみの夏秋トマトです。恵那山麓の清らかな水と昼夜の寒暖差、そして栄養たっぷりの土作りから生まれる高品質でおいしいトマト。樹で完熟させてから収穫するのでしっかり赤くてジューシー、食べごたえも満点です。約60年の歴史を持つ県内有数の産地、東美濃でこだわりのトマト作りを続ける生産者を訪ねました。

中津川市千旦林
鷹見 豪さん

長い歴史持つ夏秋トマト 土壌にこだわる栽培法

今から約60年前に始まり、産地として長い歴史を積み重ねてきた東美濃の夏秋トマト。「中津川市夏秋トマト生産組合も昭和36年に設立されています。これほどトマトづくりが盛んになった一番の理由は気候。昼夜の寒暖の差がトマト栽培に適していることです。綺麗な水が豊富にあることも理由だと思います」と話す中津川市夏秋トマト生産組合組合長で、東美濃夏秋トマト生産協議会会長の鷹見豪さん（46）。

産地全体で土作りにこだわってきたことも上質なトマト栽培の秘けつ。「土壌分析を取り入れ、精密分析をしています。トマトが育つ上で必要な養分を明確化した上で、足りない分だけ補充していく追肥型栽培です。シーズンごとにトマトの樹の表情を見ながら今は何が必要なのかを判断して入れていく作り方が特徴でもあります」

生産者それぞれが工夫と努力を重ね、よりおいしいトマトづくりに取り組んできたことが、東美濃を県内有数のトマト産地に育ててきました。

毎日五感で苗と対話し、その日その日の状況に合わせて水の量などを調整していく

手作業で行う芽・茎取り 厳しく管理、良い形守る

鷹見さんは10年ほど前から麗夏という品種の栽培に取り組んでいます。別の品種から麗夏に変えたのは「市場のニーズに応えるため」。「しっかり赤くて固いトマト」を市場、ひいては消費者が求めるようになり、麗夏への転換を選択しました。

麗夏の一番の特徴は樹で完熟させてから収穫すること。一般にトマトは青いまま収穫し、消費者の手に届くころに赤くなります。麗夏は肉質がしっかりしているため、輸送中の品質劣化を心配することなく樹で熟してから収穫することができるのです。

鷹見さんの畑の広さは現在34アールで、東美濃で始まったとされる天井のみビニールで覆った「雨除けハウス」内に定植する苗は約8，000本。連作障害を防ぐための接ぎ木用苗、台木苗も含め、3月に1万6，000粒の種をまきました。シーズン通して一番忙しいのが5月の定植作業で、植え終わると脇芽かきや管理の作業が始まります。

「収穫作業は待った無しですが、実は定植作業も待った無し。一番いい状態で畑に植えることがトマトにとってストレス無く根が張れる。そのタイミングを逃さないよう、花が咲いたら植える作業を急がなければなりません」

定植後に一番気を使うのが水の管理です。「早朝でないと見せてくれない葉露のサインがあるので、それを見逃さないように確認し、その日の水の量を決めています。自分で自分に処方箋を出すような感覚です」と鷹見さん。朝一番のトマトの茎葉との会話でトマトの状態を把握。毎日の愛情と気配りがトマトのおいしさを育てています。

苗の育成状況を確認する鷹見さんと担当の水野さん

5月に始まる定植作業

産地全体を盛り上げ やってみたいと思える農業に

鷹見さんのやりがいとなっているのは消費者の「おいしい」の一言。「JAさんと一緒にスーパーなどで販売促進を行うことがあるのですが、お客さんの声を直接聞くことがやりがいに繋がっています。また、最近若い生産者が増えつつあって、意欲的に取り組む姿勢を見ることもうれしいです」。

33歳で脱サラ就農した鷹見さんは、兼業農家で育ったもののトマトづくりは未経験でした。「ここまでできたのは先輩方が産地を育ててくれて、素人だった僕にイチから教えてくれたおかげです。自分も後輩を助けたいし、産地全体を盛り上げたい。若い人たちがやってみたいと思える農業をつくっていきたい」と産地への恩返しのため、就農希望者の研修指導にも当っています。研修農場を準備する際にはJAの「アグリサポート資金（※）」を利用。「こういったサポートは農家にとって本当にありがたい」とJAの支援を心強く感じています。

鷹見さんの目標は東美濃をトマトの「強い産地にする」こと。「強い産地は若い人がいきいきしている産地だと思います。そのために今僕ができることは何なのかを考えながら地域全体を元気にできるよう、お手伝いできればと考えています」

農の現場から／JAひがしみの営農部 水野智之さん

「農業者の所得増大」をスローガンに、組合員の方と連携して農産物の品質向上のための営農支援や情報の共有・提供などを行っています。東美濃産トマトのプロモーション活動もその一つ。消費者の生の声を聞くことが、より良いトマトづくりに生かせるとの思いからです。「ぎふクリーン農業」にも登録し、環境に優しい農業を実践。トマト生産者の新たな担い手の育成や支援にも取り組んでいます。夏秋トマト研修農場を設置し、研修生を受け入れ、就農支援を行うとともに、一般の方向けの食育教育や環境保全など地域貢献活動も行っています。

本広告に関するご意見やご感想をお聞かせください。抽選で「東美濃こだわりトマトがたっぷりカレーとジュースの詰め合わせ」をプレゼント!

抽選で10名様にプレゼント
〈写真はイメージ〉

樹で熟した王様トマト「麗夏」をベースに飛騨牛をたっぷり使用した、上品なうまみと甘さ、トマトのコクを感じるカレーと、かしものミネラルトマトとわずかな塩だけを使用した、トマトのおいしさがはっきりとわかるジュースのセットです。

①郵便番号・住所②氏名③電話番号④紙面に関するご意見を明記して下記の方法でお申し込みください。
【はがき】〒500-8875（住所不要）
中日新聞 岐阜支社 広告部
「ぎふの農業人」係

7月20日（金）必着

※個人情報は賞品発送において使用し、適正に管理します。
※当選者の発表は、賞品の発送（翌月予定）をもってかえさせていただきます。

※設備資金から運転資金まで、幅広い用途に活用できるJAの農業資金。詳しくは、JAまでお問合せください。

耕そう、大地と地域のみらい。

JAバンク 岐阜県下JA／JA岐阜信連
JAぎふ ／ JAにしみの ／ JAいび川 ／ JAめぐみの ／ JAとうと ／ JAひがしみの ／ JAひだ
── 岐阜県下JAは農業のメインバンクです ──